

公表

児童発達支援 事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドハート宇部		
○保護者評価実施期間	令和 7 年 11 月 13 日	~	令和 8 年 1 月 15 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 11名	(回答者数) 6名	
○従業者評価実施期間	令和 7 年 10 月 11 日	~	令和 7 年 10 月 25 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 9名	(回答者数) 9名	
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年10月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	スタッフの人数が多く、子ども達一人ひとりにしっかりと向き合っていけるところ	きちんと子供でも一人ひとりと対話し、無理なく過ごせるよう、そして出来そうなことには挑戦できるように努めている	子ども達の様子を常に情報共有し、問題点が生じた時は、保護者や、専門支援相談員さんや他事業所さんと、話し合いの場を設けて問題解決をしていけるようにする
2	子どもが気持ちが高揚した時の落ち着くための場所を準備している。子どもたちの話をじっくりと傾聴している。	気持ちが落ち着かない時のために、段ボールで「落ち着く部屋」を作成するなど、子どもの特性に合わせた即興的かつ具体的な環境設定を行っています。	パーティションを活用し、限られたスペースを構造化（役割を分けること）しています。プラ段ボールを使って自作のパーティーションを準備しています。
3	季節の行事や色々なイベントがあり、子ども達が楽しめる内容となっている。	画一化されないように、スタッフで色々なアイデアを出し合って、子ども達やスタッフが楽しめる内容を考えている。終了後は必ず振り返りを行っている。	事前の準備を怠らずに、しっかりと準備をして、イベントがスムーズに行えるようにします。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所が2階にあり「バリアフリーではない」点や、長期休みなどの繁忙期に「スペースが狭く感じる」という課題が従業者から複数指摘されています。	2階であること、階段が危険であることを事前に利用者様に周知して常時二重ロックを必ず行い、利用児が勝手に出ていくのを防止しています。	物理的な改修が難しいので、車椅子や肢体不自由児の受け入れに関する制限をマニュアル化し、周知しています。
2	交流イベントなどは実施しているものの、参加者が少ないことが課題です。	曜日や時間帯の設定など、保護者の方が参加できやすい曜日や時間帯を考えていくのが課題です。兄弟児や利用児の託児も課題となっています。	参加者が少ない「交流会」については、対面だけでなくオンライン（Zoom等）の活用や、短時間の座談会形式など、保護者が参加しやすいハードルの低い形式を検討する余地があります。
3	OTやSTがないため、専門的な療育が出来ていないこと。	言語療法や作業療法の専門的な知識を持っていないということが課題である	研修や一人ひとりの特性やその子にとって必要な療育とは何かを考えて、個別の支援に当たっていきたいと考えています。

公表

放課後等デイサービス 事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドハート宇部		
○保護者評価実施期間	令和7年11月13日	~	令和8年1月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 21名	(回答者数) 15名	
○従業者評価実施期間	令和7年10月11日	~	令和7年10月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 9名	(回答者数) 9名	
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年10月27日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々の掃除活動を子どもと一緒にを行うことで、場所をきれいにする習慣作りや役割意識の醸成を支援の一環として取り入れています。	拭く、掃く、トイレ掃除、本箱の整理、掃除機をかける、階段を掃く、ルーティーンの確認のカード貼り、外の落ち葉拾いや、掃除場所のを采配するリーダーなど色々な役割分担をして掃除に取り組んでいます。	子ども達のモチベーションが上がるよう、リーダーにはポンポンを付けています。色々な掃除箇所を体験してもらうように声掛けをし、それぞれの箇所には必ず先生がつくようにしています。
2	傾聴の姿勢：「子ども・保護者両方の居場所になれるよう、オープンで話しやすい空気を作っている」という従業者の意識が、保護者からの「こだわりに寄り添ってくれる」という感謝の声に繋がっています。	常に子ども達一人ひとりに寄り添い、トラブルがあった時、困った時などには、側に居てしっかりと傾聴し、その後、職員間でそのことについて情報共有しています。	子ども達の話を先ずはしっかりと傾聴し、一緒に振り返りを行うようにしていきます。
3	SNSやHPを活用した情報発信が活発で、保護者もそれを楽しみにしているなど、活動の見える化が成功しています。	行事の様子や日頃の様子等、常に新しい情報を発信するように心がけています。	個人情報にも十分に配慮し、利用者以外の方々にも見て頂けるような内容のものを発信していきたいと思っています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所が2階にあり「バリアフリーではない」点や、長期休みなどの繁忙期に「スペースが狭く感じる」という課題が従業者から複数指摘されています。	2階であること、階段が危険であることを事前に周知して二重ロックを必ず行い、利用児が勝手に出ていくのを防止しています。	物理的な改修が難しいので、車椅子や肢体不自由児の受け入れに関するマニュアル化し、周知しています。
2	交流イベントなどは実施しているものの、参加者が少ないことが課題です。	曜日や時間帯の設定など、保護者の方が参加できやすい曜日や時間帯を考えていくのが課題です。 兄弟児や利用児の託児も課題となっております。	参加者が少ない「交流会」については、対面だけでなくオンライン（Zoom等）の活用や、短時間の座談会形式など、保護者が参加しやすいハードルの低い形式を検討する余地があります。
3	保護者から「きょうだいがデイの様子を体験できる場が欲しい」という具体的なニーズが出ており、現状ではまだ十分に応えられていない可能性があります。	きょうだい支援プログラムの構築： 保護者からの要望にある「きょうだい体験デイ」を長期休暇中に企画するなど、家族全体をターゲットにした支援を強化することで、満足度がさらに向上します	長期休暇を利用して兄弟で参加できるイベントの企画を考えていきたいと思います。

公表

児童発達支援 事業所における自己評価結果

事業所名	チャイルドハート宇部					公表日 令和8年 2月 15日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	1	部屋数は多くないものの、十分なスペースが確保されており、パーテーションなどの仕切りを使って工夫している	長期休みの時は狭いと感じるので。児発と放デイを分けて、戸外活動にて掛けたりしている	
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	0			
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	3	可能な限り環境への配慮を行っており、利用者の特性に応じたスペースの設置など、配慮を施しています	2階にあるため、急な飛び出しを防ぐために二重ロックにしています	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	0	落ち着いて穏やかに過ごせる環境が整っていると感じており、特に気持ちが落ち着かない時のために、段ボールで「落ち着く部屋」を作成して対応している	毎日、掃除を利用児童やスタッフとで行い、自分たちの使っている部屋を綺麗にしたいという気持ちを育んでいきたい	
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	1	パーティションでの区切りや落ち着く場所の設置などによって環境を整えている。しかし、カームダウンのための場所をさらに確保できると良いと考えている	限られた部屋数で落ち着いた場所を確保していくのが課題である	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9	0			
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	その都度きちんと共有されている	記録媒体の欄に長期目標・短期目標、5領域の支援内容が記載されており、その記録を日々記入している	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	6			
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0			
適切な支援の提	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0			
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9	0			
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	0			
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	0	その都度きちんと共有されている	記録媒体の欄に長期目標・短期目標、5領域の支援内容が記載されており、その記録を日々記入している	
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	0			
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	0			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	0			

供 給	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0	個々の発達に応じた支援に加えて、季節のイベント、制作、戸外活動など様々な活動に多角的に取り組んでおり、イベント活動の企画・実施は現場職員が交代で担当している	日々のイベントの役割を交代して行い、活動内容が画一化しないように工夫している
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9	0	個々のベースに合わせて無理なく、スマールステップを意識して支援している	個々の特性をしっかりと見極めて支援計画書を作成し、スマールステップで支援にあたっている
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	0	職員間の朝の会を行っている	朝の送迎前にその日のイベントの内容や活動計画の打ち合わせを行っている
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	0	帰りの時間に振り返りを行うとともに、送迎などで打ち合わせに参加できなくても誰かが気づいた点を教えるなど、常に（状況に）変化があればすぐに共有できるよう努めている（ただし、必ずしも徹底できていない時もある）	送迎後の帰りの会で必ず振り返りを行っている。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	0		
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0		
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	2	職員間ではしっかりと連携が取れていると思う。ただし、医療機関との連携は一度しかないなどあまり取れていないのが現状である。（水田先生との相談は行っている。）	関係機関でなるべく連携を図るように気を付けている
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	2		
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	2		
	(28~30は、センターのみ回答)				
	28 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	(31は、事業所のみ回答)				
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	9	0		
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	4	公共施設や公園で他事業所と偶然一緒になることはあるほか、積極的に他事業所へ行き交流の場を設けたり、イベントに地域の方を招くなど、外部との交流機会を作っている。	なかなか保育所や幼稚園や認定こども園の子ども達と交流をすることは困難であり、課題である
	33 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0		
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	1		
	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	0		
	36 児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0	その都度行っている	電話や送迎時、モニタリング、支援会議などで、その都度相談に応じ、必要な助言や支援に当たっているようにしている
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8	1	イベント開催などの工夫により、交流の機会]をなるべく多く設けるように努めているが、参加者が少ないことが課題である。	曜日や時間帯内容など、適切に考えていきたい
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0	その都度、職責間でしっかり話をし、対応するようにしている	申し入れがあった場合は迅速に且つ丁寧に対応するようにしている
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	0	インスタグラムや通信の発行をしている	日々の療育の様子やイベントの様子を、発信し、常に新しい情報を発信するように心がけている
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9	0	夏祭りや、コンサートなどのイベントには地域の方も積極的にお声掛けしている	地域の方をご招待したり、昔の遊びを子ども達に教えてもらったり、コンサートで音楽の演奏をしてもらうなどの地域交流を行っている
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	0	時々、服薬について教えてくれない保護者もいる	モニタリング時に服薬についてたずねるよう心がけている
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	1	保護者からの連絡のみで、医師の指示書はない	保護者様から指示をしていただいている
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	3	保護者の申し入れによる	保護者様からアレルギーの内容を教えていただき、職員間で情報共有している
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	0		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	1		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9	0		

公表

放課後等デイサービス 事業所における自己評価結果

事業所名		チャイルドハート宇部				公表日	令和8年2月15日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	2	部屋数は多くないものの、十分なスペースが確保されており、パーテーションなどの仕切りを使って工夫している。	長期休みの時は狭いと感じるので。児発と放デイを分けて、戸外活動にて掛けたりしている。	
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	0			
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	2	可能な限り環境への配慮を行っており、利用者の特性に応じたスペースの設置など、配慮を施しています。	2階にあるため、急な飛び出しを防ぐために二重ロックにしています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	0	毎日、子どもたちと一緒に清掃活動に取り組みながら子どもの特性に合わせた対応の必要性を感じており、実際に気持ちが落ち着かない時のための「落ち着く部屋」を段ボールで作成して工夫している	子ども達と一緒に掃除活動を毎日行い、自分たちの過ごす場所を綺麗にしようという気持ちを育んでいます。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	1			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9	0	イベントを行う際には、計画書、報告書を作成している	イベントを行う際、行った後、みんなで計画し、みんなで振り返りをしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	日々の療育を行う上で、常に意見交換ができる関係性を築くとともに、朝の会の後（または帰り）にその日の振り返りを行っている。	常にみんなで意見交換を行うようにしている。良いところは継続し、見直す点は見直して、次に活かすようにしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	8			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0			
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0			
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9	0			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	0			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	0			
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	0			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	0			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	0			

援 の 提 供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0	常に工夫し、季節に合わせてそしてその日のメンバーに分かれてもレベルも設定し、組んでいる	週のイベントは、日々、イベント担当者を変えて、内容が偏らないように工夫しています
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9	0		
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	0	お迎えの時間に職員がその場にいなくとも、戻ってきた時にしっかりと話し合って情報共有できていると思う。今後は、さらに丁寧な打ち合わせができる時間を確保できると良いと考えている	朝の朝礼時、送りが終わったあとに、話し合いを設け、みんなで情報共有している。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	0		
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	0		
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0		
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	9	0		
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9	0	きちんと子供でも一人ひとりと対話し、無理なく過ごせるよう、そして出来そうなことは挑戦できるように努めている	自分で「できた！」時には、賞賛し、頑張りカードにごほうびシールを貼って頑張る気持ちを育んでいます
	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	3		
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9	0	学校によって情報量にばらつきがある	下校時刻や行事などの情報が欲しい時には保護者の方にたずねたり、学校に問い合わせをさせていただいている。
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	3	全利用者にできているわけではない	相談員さんとも連携をし、保育園や幼稚園や認定こども園と情報共有するように心がけている
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8	1		
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8	1		
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	4	5	公園や公共施設などで他の事業所と空間を共有し、交流の場を設けることはあるが、その機会は少なく、時間の関係で活動を一緒に行うのは難しい状況にある	改まっての交流はなかなか難しさを感じている
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8	1		
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0		
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレンツ・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	0		
	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	0		
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0	常に家族との連携を意識して取り組んでいる	送迎時やモニタリングや日々の相談の中で、子どもや保護者様のニーズや問題点を念頭に置いて支援に取り組んでいる
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9	0		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0	子ども、保護者両方の居場所になれるように常にオープンに遠慮なく話せる空気を作っている	保護者様からの電話相談を受けたり、送迎時に話をしっかりと聞くようにしている。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	9	0	兄弟同士の交流など、様々な機会を設けているが、参加者は少ない状況である。兄弟同士の交流は特に機会が少ないながらも実施している。	夏まつりやコンサートやスヌーズレンなど、兄弟児が参加できる催しを企画、開催している
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	0	インスタグラムや、通信の発行をしている	日々の様子や行事など常に新しいものをブログやインスタグラムで発信するようにしている
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9	0		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	0		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	1	時々、服薬について教えてくれない保護者もいる	服薬についてモニタリングで情報共有するようしている
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	2	保護者からの連絡のみで、医師の指示書はない	医師の指示を保護者の方にしておられるので、保護者の方の指示に従っている
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	0		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	0		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0		
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	0		